

県の患者切り捨て姿勢うきぼりに・・・

県立小児医療センター移転計画の患者説明会

2月11日県立小児医療センター内で、同センターの患者保護者に対する移転計画説明会が開催され170人が参加しました。

質疑応答が始まると多数の人が挙手を求め、多くが反対の立場を表明しました。

新都心8-1Aはさいたま赤十字中心に整備を

特に質問が集中したのは、なぜ同センターを移転しなければならないのかという点です。県は医療政策上、周産期医療と高度救命救急の拠点施設をつくるためだと繰り返し、患者家族に理解を求めました。これに対して、「新都心は県が補助してさいたま赤十字病院だけで施設を整備すればいい。センターの移転は必要ない」という意見が相次ぎました。

患者の不安の声は解消されず

また、患者保護者が心配している点に対する答えの大半が、今後配慮する、検討するというものでした。新都心周辺の交通渋滞調査も不十分さを認める、駐車場も可動式は危険で手間がかかり駐車渋滞を招きかねない、てんかん発作など一刻も早く処置しなければならない患者の対策が全くないなど、これでは保護者が納得できないのは当然です。

「難病のうちの子は明日の命もわからない。商業施設へ集まる楽しそうな若者の中を通院するのは非常に苦痛です」という保護者の悲痛な訴えが印象的でした。

県の計画には現患者に対する配慮が完全に抜け落ちており、県の患者切り捨ての姿勢が浮き彫りとなった説明会でした。

説明会は1時間半延長に

質問が多数相次ぎ、説明会は1時間半以上延長されました。また保護者たちの強い要請で今後も説明会を開くことを県は約束しました。

地域ほっとNEWS！

患者家族会がテレビに！！！！

患者家族の会をこの間TBS「噂の！東京マガジン」(ひる1時)が取材を続けています。3月放映予定！

春日部市でも「小児医療センターの存続を求める春日部の会」結成 白岡町でも結成予定

1月28日患者保護者も代表者として春日部の会が立ち上げられました。学習をしながら、患者家族の会署名にとりくみ、県への意見書提出を求める市議会請願も提出します。白岡町でも会準備中
上尾市で1月25日移転問題学習会開催

上尾市では移転問題を考える学習会が開かれ、患者保護者など30名あまりが参加しました。保護者たちは今後も署名を全力で集めていきます。